

令和6年6月30日 宣伝使・信徒研修会

前田茂太特派宣伝使 講話

## 「宣伝使 信徒の心得」

信仰生活や人生の目的において大切なことは、「自分の心の中に天国を築くこと」です。霊界に帰る際には、生きている間に自分の心に築いた世界にふさわしい霊界へと向かいます。つまり、生きているうちに心の中に天国を築けていなければ、霊界でも天国に行くことはできないのです。

そのためには、生きている間に自分の魂に積もった「めぐり」を取り除くことが重要です。「めぐり」とは、「神さまの御心にかなわない行いをしたこと」を指します。この「めぐり」は、現世だけでなく、前世やその前の世代から積もり積もった穢れや過去の過ち、さらには先祖が犯した過ちなど、多岐にわたります。

生きている間に、自分や家族が病気になったり、困難な状況に直面したりすることがありますが、そうした時にこそ、神さまが「めぐり」を取り除いてくださっていると前向きに捉えることが大切です。前向きに捉えられないと、恨みや辛みが心に入り込み、信仰の道から外れてしまうことがあります。

大本の信仰では、入信したばかりの頃にさまざまな出来事が起こることが多く、耐え切れずに信仰を辞めてしまう方もいます。しかし、入信したからといってすぐに問題が解決するわけではなく、それはむしろ、累代の先祖や自分自身の罪や穢れを神さまが取り除いてくださっている証拠だと前向きに捉えることが重要です。また、「他人を責めたり、他人のせいにしないこと」や、「他人の嫌な部分が見えた時、自分自身にも同じ要素があるのではないか」と自分の心を見つめ直すことが求められます。神さまはそのような内省の機会を与えてくださっているのです。

私たち大本信徒は、家庭はもちろん、地域や職場、学校など、日々の行いを通じて「この人なら信用できる」、「この人なら安心して任せられる」と周囲から信頼される関係を築くことが大切です。そのためには、「自分の心の中に天国を築くこと」、そして意識的に物事を好意的に捉えることが求められます。

岩戸は、だれかが開いてくれるのではなく、だれかが悪いのでもなく、自分自身、それぞれ一人一人が、重い心の岩戸を開かせていただかないと、日の出のみ代はなかなかこないと思います。

教主様お言葉

平成15年4月28日

綾部氏於与岐町 金峯山神社にて

2024年 2/10～2/12 大本南米本部で夏期学級が開催されて、交流団として静岡分苑松風支部から佐藤良亮さん（22歳）が参加されました。

### 南米本部夏期学級に参加して

静岡松風支部 佐藤良亮

今回私は様々な巡り合わせでブラジルに行くことができました。尾山さん御家族と一緒に松風支部に所属していたことや、信徒の方々からご支援をいただいたことを含めて、偶然が重なった結果だと感じています。

交流団のメンバーや現地の方々を含め人にも恵まれた10日間だったと思います。特にブラジルの青年たちとは波長が合い、深夜3時過ぎまで人生観について語り合った日もありました。帰国して2ヶ月経った今でも彼らとは連絡を取り合ったりビデオ通話をしたりしています。

彼らとの会話の中で一番印象的だったのは、「自分にとって正しい道を探すために大本について勉強している」という1人のブラジル人青年の言葉です。まだ大本信徒ではないものの、キリスト教に傾倒し負の方向へ進み続ける両親から離れて自分なりの生き方を探し求めたいという思いから大本の精神を学んでいると彼から聞いた時、自分ももっと主体的に信仰をしていかなければいけないと思いました。ご縁をいただいて聖地のある京都に住むことができているからこそ、自分なりに信仰に対する姿勢を考え直そうと思いました。

今回は10日間という比較的短い期間ではありましたが、素敵なお縁や日本には得られなかったであろう気づきを得ることができました。引き続き静岡と京都で信仰を続けていきたいです。

